コロナ鉄道新聞

〈発行者〉
横須賀市
神奈川県横須賀小学校
浦賀6年1組
長島 遼太郎

鉄道会社、大ピンチ！

引用元：Toyokeizai.net news.yahoo.co.jp

今回は、コロナウィルスが鉄道会社にどれほどの打撃を与えたのかを見ていきます。

まずは、私鉄各社の運輸収入という精算が行われる前の収入がどの程度減少したのか、を比べていきます。第3位は、京王電鉄と東急電鉄です。減少率は13.2%でした。第2位は、小田急電鉄です。減少率は13.4%でした。第1位は、近畿日本鉄道です。減少率はぶっちぎりの17.8%でした。

次にJR各社の赤字額を比べていきます。JR東日本は、1553億円、JR東海は、720億円、JR西日本は767億円もの赤字を出しました。ここで、こんな額も、赤字を出していてコロナ時代に鉄道を使う人はいるのか気になり、そこで、東京の都心部を走る山手線、新幹線、ひそれぞれ利用者数を調べてみました。

▲東京の都心部を走る山手線の車両。

JR東日本が4月13日4月8日～10日の平日朝、通勤時間帯の山手線の利用者は1年前と比べて60%減ったと明らかにしました。

（引用元 jiji.com）

4月12日の山手線利用者は1年前と比べて85%減りました。週末4月11日～

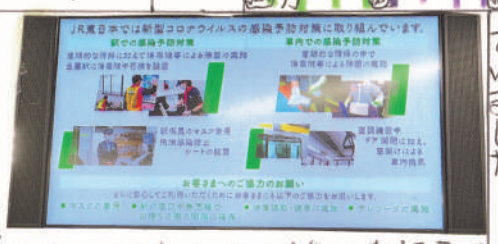
新幹線は、お盆期間（8月7日～17日）のJR東海の東海道新幹線利用者は、前年比約76%減の105万7000人になりました。JR西日本の、山陽新幹線は同約77%減の49万4000人。北陸新幹線は、同約79%減の7万8000人。JR東日本の、東北、上越新幹線をはじめとする各新幹線は、同約77%減の119万1000人とともに減少しました。

コロナで駅が進化!!

コロナウィルスで、私達の生活が大きく変わりました。そこで、このコロナ時代で駅も大きく変わったのではないかと考え、目に見える変化を探しました。まずは、JR東日本の駅から紹介します。すぐ目に付くのは構内にある大型のディスプレイ。ここには、

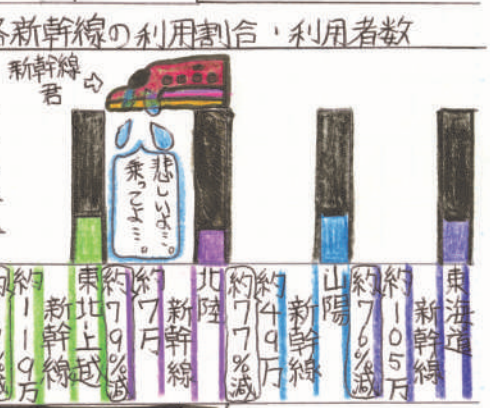
▲工夫された消毒液。（JR新子安駅撮影）

次は、改札にある消毒液です。ご自由にお使いください。というような、文章が日本語だけでなく、英語など幅広い言語で書かれている紙です。（JR新子安駅撮影）



▲ディスプレイで取り組みを伝える

コロナによって会社がどのような取り組みを実施しているか、お客様にどのようなことを協力してもらいたいか、が提示されていました。



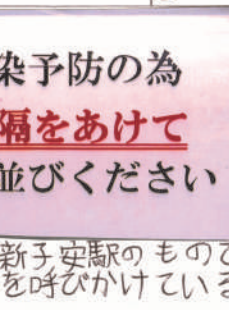
今年は、コロナの影響で鉄道各社が厳しい状態になっています。ぜひ、いろいろなコロナが終了した場所に、「電車」で行ってみてください。

編集後記

私は、今年だけこそ、コロナと鉄道との関わりを新聞に書きたいと思いがあったので、まとめてしまいました。それにしてもあげるのが難しかったが、できました。

があり、誰でも使えるように工夫がされていました。

次に、京急電鉄の駅売券機の紹介します。券売機の横に「感染防止のためお並びください」と書かれたくだ「間隔をあけて」と書かれた紙があります。券売機は、日々多くの多様な人が使うものです。このようにしてこれを注意喚起をよびかけています。コロナを呼びかけている。



▲注意を呼びかけている。（京急新子安駅撮影）